



# 町村自治

7月 2011 平成 23年

● 発行所 青森県町村会 ● 編集発行人 山口 昇 ● 印刷所 長尾印刷株式会社  
〒030-0801 青森市新町二丁目4番1号(年4回発行) TEL 017-723-1331 FAX 017-723-1347  
ホームページ <http://www.aomori-chousonkai.jp/> E-mail [ack@aomori-chousonkai.jp](mailto:ack@aomori-chousonkai.jp)



## マグロ漁 好調な出足

深浦町は、マグロ漁獲量が県内第1位となるなど、漁業が盛んな町です。今年も、30kgから40kgクラスが次々と荷揚げされ、ハマは賑わいを見せています。水揚げされたマグロは、道の駅や地元飲食店でも食べることができます。新鮮なマグロを是非ご賞味ください。

【No. 1191】

〔マグロ漁 ふかうらまち 深浦町〕

- 本会臨時総会…………… 2
- 24年度重点施策の国会議員説明会… 4
- 東北地方太平洋沖地震に係る知事への提言活動 …… 6
- まちづくりへの挑戦 蓬田村…12
- いまが旬！……………14
- 随想 吉田深浦町長……………18

行くたび、  
あたらしい。  
**青森**

AOMORI  
「いくべえ」  
マスコットキャラクター



青森デスティネーションキャンペーン 2011.4.23~7.22

# 青森県町村会臨時総会

## 会長に越善靖夫東通村長を選出

### 副会長は新郷村、西日屋村の両村長



新たな執行体制を決定した臨時総会の様子

本会は六月十七日、青森市の県共同ビルで臨時総会を開催し、任期満了に伴う役員の変更を行った。協議の結果、会長に越善靖夫東通村長を選出したのはじめ、新たに副会長二名、監事三名を選出し、本会の新たな執行体制が決定した。理事には郡町村会長を充てることとなる。



就任あいさつする越善新会長

臨時総会には、逢坂会長ほか二十六町村長が出席した。逢坂会長が議長を務め議事に入り、任期満了に伴う役員の変更を行い、会長に越善靖夫東通村長、副会長に須藤良美新郷村長、関和典西日屋村長、監事に小鹿正義今別町長、古川健治六ヶ所村長、東條昭彦鯉ヶ沢町長を選出し、新役員が決定した。新役員の任期は平成二十三年六月十九日から二年間となる。

全役員の皆様方、町村長の皆様方と一体となって、国、県等に働きかけて参りたい」と抱負を述べた。

**総務厚生委員長に**  
古川六ヶ所村長  
**産業経済委員長に**  
館岡板柳町長

本会は臨時総会終了後、青森市のラ・プラス青い森で、総務厚生、産業経済両委員会を開催し、任期満了に伴う委員長、副委員長の選任を行った。

総務厚生委員会では、委員長に古川健治六ヶ所村長、副委員長に小鹿正義今別町長、須藤良美新郷村長をそれぞれ選出した。また、産業経済委員会では、委員長に館岡一郎板柳町長、副委員長に小野俊逸中泊町長、吉田豊六戸町長をそれぞれ選出した。両委員会の構成は名簿のとおり。

引き続き、両委員会では県当局と諸案件について協議した。総務厚生委員会では、県総務部市町村振興課の大川課長から「町村における行財政的課題等について」、また、産業経済委員会では、県農林水産部の渋谷部長から「青森県農林水産部の主要施策につ

# 青森県町村会役員名簿

会長

越善 靖夫

(東通村長)



副会長

須藤 良美

(新郷村長)



副会長

関 和典

(西目屋村長)



理事

森内 勇 (外ヶ浜町長)  
吉田 満 (深浦町長)  
鈴木 孝雄 (田舎館村長)  
亀田 道隆 (野辺地町長)  
金澤 満春 (大間町長)  
松橋 良則 (田子町長)

監事

小鹿 正義 (今別町長)  
古川 健治 (六ヶ所村長)  
東條 昭彦 (鱒ヶ沢町長)

## 青森県町村会政務調査委員会名簿 (平成23年6月17日現在)

### 総務厚生委員会名簿 (14名)

委員長	古川 健治	(六ヶ所村長)
副委員長	小鹿 正義	(今別町長)
〃	須藤 良美	(新郷村長)
委員	森内 勇	(外ヶ浜町長)
〃	東條 昭彦	(鱒ヶ沢町長)
〃	関 和典	(西目屋村長)
〃	山田 年伸	(大鰐町長)
〃	中野 撃司	(鶴田町長)
〃	野坂 充	(横浜町長)
〃	成田 隆	(おいらせ町長)
〃	越善 靖夫	(東通村長)
〃	太田 健一	(佐井村長)
〃	工藤 祐直	(南部町長)
〃	浜谷 豊美	(階上町長)

### 産業経済委員会名簿 (16名)

委員長	舘岡 一郎	(板柳町長)
副委員長	小野 俊逸	(中泊町長)
〃	吉田 豊	(六戸町長)
委員	逢坂 雄一	(平内町長)
〃	古川 正隆	(蓬田村長)
〃	吉田 満	(深浦町長)
〃	小田桐智高	(藤崎町長)
〃	鈴木 孝雄	(田舎館村長)
〃	亀田 道隆	(野辺地町長)
〃	小又 勉	(七戸町長)
〃	斗賀 壽一	(東北町長)
〃	金澤 満春	(大間町長)
〃	飯田 浩一	(風間浦村長)
〃	竹原 義人	(三戸町長)
〃	三浦 正名	(五戸町長)
〃	松橋 良則	(田子町長)

### 管理者に

#### 越善東通村長を選任

#### 県市町村総合事務組合

本会に事務局を置く県市町村総合事務組合は、本会臨時総会終了後、議会臨時会を開催し、逢坂管理者ほか議員等八町村長が出席した。

臨時会では、報告事項一件を原案どおり承認した後、正副管理者選挙を行い、管理者に越善東通村長、副管理者に関西目屋村長を新たに選任した。また、欠員に伴う副議長選挙を行い、工藤南部町長を選任した。



本会総務厚生委員会の様子

いて、県観光国際戦略局の馬場局長から「観光国際戦略の推進について」それぞれ説明があり、意見交換を行った。

# 震災の復旧・復興対策並びに 地方財政基盤の充実・強化等を訴える 24年度重点施策の国会議員説明会 県・市長会・町村会三者合同で



震災の復旧・復興対策等の重点施策を説明する越善会長

本会は、県、県市長会の三者合同で、六月二十五日、青森市の青森国際ホテルで平成二十四年度重点施策の国会議員説明会を開催した。

本会からは越善会長、須藤副会長、関副会長をはじめ、二十九町村長（代理含む）が出席し、県選出国会議員に対し、東日本大震災の復旧・復興対策や、地方財政基盤の充実・強化など七項目の重点施策を説明し、実現へ協力を求めた。



説明会には関係者約150人が出席

説明会には、県選出国会議員の横山北斗衆議院議員、大島理森衆議院議員、木村太郎衆議院議員、中野渡詔子衆議院議員、高橋千鶴子衆議院議員、山崎力参議院議員、平山幸司参議院議員ほか代理として各国会議員秘書と、各政党県連等の幹事長をはじめ幹部が出席した。また、本会からは越善会長、須藤、関両副会長をはじめ二十九町村長（代理含む）、県からは三村知事ほか副知事と関係部局長、県市長会からは鹿内会長（青森市長）ほか各市長（代理含む）、など、約百五十人が出席した。昨年度から三者合同で実施

している同説明会では、はじめに、県が三村知事のあいさつに引き続き、震災関連分として「創造的復興」を実現するための財政支援、公立学校をはじめとした避難所の防災機能強化など十項目、通常分として、青森・岩手県境不法投棄事業に対する国の財政支援、むつ小川原グリーンITパークの推進など、十項目の重点施策を担当部局長が説明した。

本会からは、まず越善会長があいさつの中で「東日本大震災の復旧・復興対策については、被災者や被災地域が速やかに復旧・復興できる諸対策に係る財政措置や法整備を早急に行うようお願いする。また、町村が自主的、主体的な地域づくりを進めるためには、町村自治の確立と、その前提となる町村財政基盤の強化が不可欠である」と述べ、本会事務局から、東日本大震災の復旧・復興対策、地方財政基盤の充実・強化など、七項目の重点施策を説明した。（本会重点施策の説明項目は左のとおり）。

また、市長会からは、東日

## 本会重点施策の説明項目

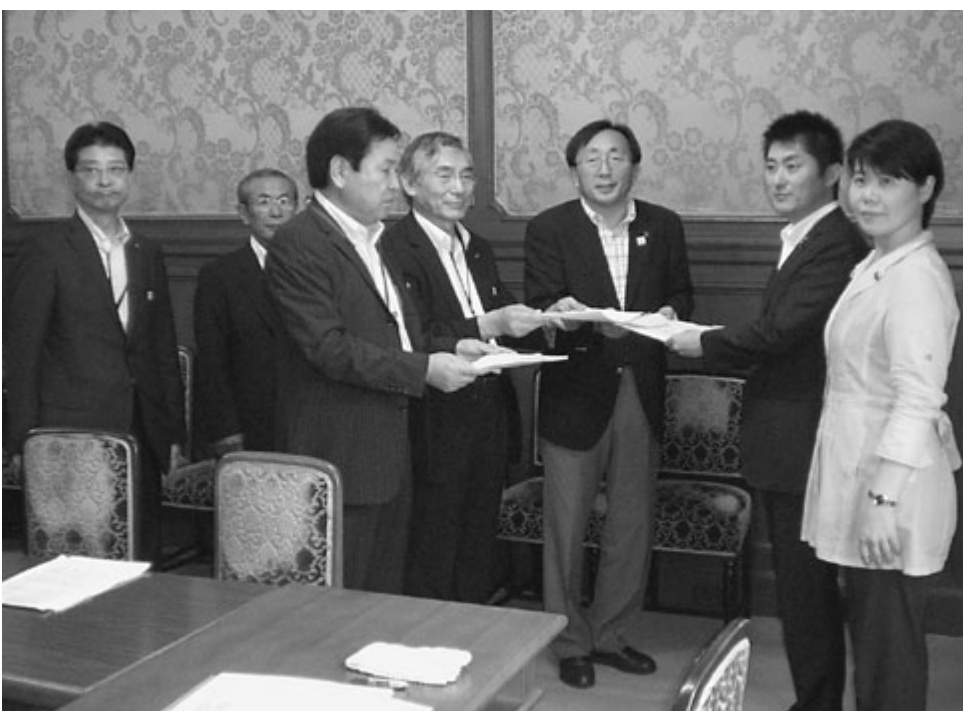
1. 東日本大震災の復旧・復興対策に関する提案
2. 平成二十四年度政府予算編成及び施策に関する提案
  - (1) 地方財政基盤の充実・強化について
  - (2) 医療・保健・福祉施策の強力な推進について
  - (3) 農林水産業の振興について
  - (4) 社会基盤の整備について
  - (5) 廃棄物処理対策の充実・強化について
  - (6) 義務教育施設等の耐震化及び老朽化対策事業の推進について



県説明の冒頭で三村知事があいさつ



説明会には県選出国會議員7名が出席



民主党陳情要請対応本部 松浦副本部長に要望

### 地方六団体が 重点施策提案活動

本大震災に伴う地域経済対策など、九項目の重点施策が説明された。

三村知事や越善会長をはじめ、本県地方六団体の代表者は、

七月十一日、東京都内において、民主党、自民党両党本部のほか、国土交通省、環境省、厚生労働省、総務省並びに県選出国會議員に対し、平成二十四年度の重点施策提案を行い、本県の実情を訴え、施策の実現について強く求めた。

# 東北地方太平洋沖地震に係る

## 「青森県復興プラン」

### 策定にあたり知事に提言

#### 本会災害対策本部会議を開催



災害復旧・復興に向け逢坂会長が三村知事に提言

#### 復旧・復興に向け

#### 政策課題を提言

本会では四月二十二日、東北地方太平洋沖地震に係る知事に対する提言活動を行い、逢坂会長が三村知事に対し提言書を提出した。

これは、県の青森県復興プランの策定にあたり、同プランに本会からの災害復旧・復興に関する提言内容を反映させるために実施したもので、災害復旧に向けた支援、防災対策の強化、地方自治体への財政支援、原子力施設の対応等、災害復旧・復興に向けた政策課題等について提言した。

#### 本会災害対策本部を開催



本会災害対策本部会議の様子

本会は、五月十日、青森市の県共同ビルで青森県町村会東北地方太平洋沖地震災害対策本部会議を開催し、逢坂本部長（本会会長）ほか、関係町村長六人が出席した。

会議では、今回の地震に係る本会の対応状況について報告したほか、今後の対応として、今後も県の要請に基づき各市町村に対し人的支援依頼を行うこととし、また、県内被災市町村では、応急対策から復興へと移行しており、県

においても活動の中心が生活再建・産業復興局に移行している状況から、本会の災害対策本部については、県等の状況を注視しながら廃止を含め、対応を検討することとした。

なお、災害対策本部で協議した事項については、同日開催の第二回本会理事会においても報告がなされた。

#### 青森県復興プランを策定

県は、五月に現時点での対応状況や課題を整理し、「当面の取組」をまとめた「青森県復興プラン」を策定し、復旧復興に向けた対応を進めている。

また、県では、年内を目途に創造的復興に向けた課題と中長期的な取り組みの方向性を示す「青森県復興ビジョン」を策定することとしており、その検討のため「青森県復興ビジョン策定懇話会」を設置し、本会も同懇話会に参画した。

これらの状況を踏まえ、本会の災害対策本部は六月十四日付で解散することとした。

## 重点施策提案内容を決定

本会は六月三日、青森市の

県共同ビルで正副会長・理事・監事・政務調査委員長・顧問合同会議を開催した。出席者は、逢坂会長ほか関係町村長十二人。

会議では、六月十七日に開催する本会臨時総会の開催期日並びに総会次第案と役員選任について、また、六月二十五日に開催される二十四年度重点施策の国会議員等説明会での本会からの要望事項等を協議し、協議の結果、それぞれ原案どおり承認、決定した。

協議事項は次のとおり。

### 協議事項

- 協議事項1 平成二十三年青森県町村会臨時総会開催期日及び総会次第案について
- 協議事項2 本会役員の選任について

＝臨時総会の概要並びに本会役員選任の詳細については、

本紙二、三頁参照。

○協議事項3 平成二十四年度重点施策の国会議員等説明会等について＝本会からの要望項目を次のとおり決定した。説明会の概要については、本紙四、五頁参照。

- 1 東日本大震災の復旧・復興対策に関する提案
- 2 平成二十四年度政府予算編成及び施策に関する提案

### 総務省関係

・町村自治の確立及び地方財政基盤の充実・強化について

・自治体病院に対する財政措置の充実・強化について

・情報化施策の推進と地上デジタル放送への円滑な移行について

### 文部科学省、文化庁関係

・核融合研究開発を行う国際研究拠点の整備について

・野生鳥獣の保護管理事業の充実・強化について

・義務教育施設等の耐震化及び老朽化対策事業の推進について

### 厚生労働省関係

・地域医療の確保・充実について

・子育て支援対策の総合的な推進について

・介護保険制度の円滑な運営について

・国民健康保険制度等の円滑な実施について

・障害者保健福祉施策の推進について

### 農林水産省関係

・農業の振興について

・林業の振興について

・水産業の振興について

### 経済産業省、資源エネルギー庁、原子力安全・保安院関係

・原子力施設の安全対策について

・電源地域振興のための交付金制度の拡充について

・高レベル放射性廃棄物の最終処理に係る施策の推進について

### 国土交通省関係

・道路の整備等について

・県土の安全性の確保と向上について

・津軽ダム建設事業の整備促進について

### 環境省関係

・廃棄物処理対策の拡充・強化について

・野生鳥獣の保護管理事業の充実・強化について

## 本会事業に

### 協力要請

#### 町村総務課長会議

本会は五月十三日、青森市のラ・プラス青い森で町村総務課長会議を開催した。出席者は町村総務担当課長等三十一人。

会議では、本会総務課が町村長健康管理研修、弔慰金の支給、顧問弁護士など総務関係九項目、公有建物災害共済事業など共済関係四項目、業務課が各種研修、町村職員採用統一試験、法令外負担金の規制など十二項目、市町村総合事務組合滞納整理課が二十三年度組合の運営方針等について説明し、各業務に対する理解と協力を求めた。

また、県総務部防災消防課の松岡課長を講師に迎え、「東北地方太平洋沖地震への対応と今後の課題」と題し講演いただいた。松岡課長は、今回の地震の特徴として、観測史上最大級の地震規模と記録的な大津波の発生により被災地域が広範囲に渡っていること、また原子力発電所の被災や停

電の長期化、燃料の供給減などが挙げられるとした。また、今後の課題として、防災対策の総点検、自主防災組織の組織率の向上、電力、燃料の確保などが必要とした。

### 徴収事務の

#### 円滑化に向け

#### 税務徴収主管担当課長会議

青森県市町村総合事務組合は五月十三日、青森市のラ・プラス青い森で、税務徴収主管担当課長会議を開催した。出席者は市町村徴収担当課長等三十六人。

会議では、県税務課の雪森指導グループマネージャーが「県税の現状と課題」と題し、また県市町村振興課の宇野税政グループマネージャーが「市町村の現状と課題について」と題し講義した。また、本組合滞納整理課が本年度の組合運営方針と、水田活用及び米所得補償交付金や原子力立地給付金の差押えなど特殊な滞納処分について、また、差押・公売実績を説明し、徴収事務の円滑化と組合運営に理解と協力を求めた。

# 23年度事業計画・ 予算等を決定 各団体理事会・総会

本会に事務局を置く四つの各団体は、六月三日、青森市の県共同ビルで二十三年度理事会、総会を開催した。

各団体は、二十二年度事業報告・収支決算、二十三年度事業計画・収支予算等を審議し、それぞれ原案どおり承認、決定した。

また、全国山村過疎地域振興連盟県支部、発電関係市町村全国協議会県支部では、欠員及び任期満了に伴う役員

の選任をそれぞれ行った。なお、本会に事務局を置く各団体のうち県市町村林野振興対策協議会は、八月以降に理事会及び林政懇談会を開催予定としている。

各団体の理事会、総会の概要は次のとおり。

**青森県市町村農業農村振興対策協議会**  
理事会には館岡会長（板柳町長）ほか理事四人（代理含む）が出席し、収支予算等

を承認、決定した。

また、理事会では同協議会の今後の対応について協議し、全国市町村農業農村振興対策協議会並びに東北六県農業農村振興対策連絡協議会の状況等を踏まえ、今後の本協議会のあり方について検討を行うこととし、今年度、会員市町村の意向調査を行うこととしたほか、二十三年度以降は会員市町村負担金を徴収しないことを決定した。

**青森県広報広聴協議会**  
理事会には逢坂会長（平内町長）ほか、理事十人（代理含む）が出席し、収支予算等を承認、決定した。

**全国山村過疎地域振興連盟青森県支部**  
理事会には、太田副支部長（佐井村長）、小鹿副支部長（今別町長）、ほか理事五人（代理含む）が出席し、収支予算等を承認、決定した。

**発電関係市町村全国協議会青森県支部**  
総会には、関支部長（西目屋村長）、竹原副支部長（三戸町長）ほか会員市町村より三人が出席し、収支予算等を承認、決定した。

また、欠員に伴う支部長及び山村振興部会長の選任を行った。支部長には太田佐井村長（過疎地域対策部会長兼任）を選任し、それに伴い欠員となった副支部長に野坂横浜町長を選任し、山村振興部会長を兼務することとした。

**発電関係市町村全国協議会青森県支部**  
総会には、関支部長（西目屋村長）、竹原副支部長（三戸町長）ほか会員市町村より三人が出席し、収支予算等を承認、決定した。

また、任期満了に伴う正副支部長の選任を行い、支部長に関西目屋村長、副支部長に竹原三戸町長をそれぞれ再任した。



広報広聴協議会理事会の様子

## 効果的な 面接技法とは 面接試験技法研修会



公務人材開発協会の福島講師が講演

県市長会、本会、県市町村振興協会は三者共催により、六月二十八日、青森市のアツプルパレス青森で、面接試験技法研修会を開催した。出席者は市町村の人事担当管理職員等約二十人。

山口常務理事兼事務局長のあいさつに続き、研修会では、財団法人公務人材開発協会の福島一夫氏が面接試験の目的と工夫や留意事項等について講演した。

福島氏は「試験官は受験者の心理状態をよく理解し、緊張

感をときほぐすことや誠実な態度で接する努力など、受験者の優れた能力を発揮させる必要がある。また面接試験の目的は、受験者の人柄、意欲、対人関係能力について公平に評定し、採用予定職務への職務遂行能力の適否を判断することである」と述べた。

また、試験官としての心構えについて、「面接の基本は、受験者のいいところを見ること。試験官だからと身構えるのではなく、日常生活と切り離さずに日頃自分が心がけている対人面でのスキルやテクニックを活かして、面接することが大切。職場で若い人とのコミュニケーションを活発にしておくことなども、実際の面接時に活かされてくる」などと述べた。

研修会では、模擬面接試験のDVDを観賞し、三人の面接試験官と受験者の悪い例と良い例の言葉使いや態度などについて、各グループに分かれて討議し意見交換・発表したほか、出席者代表による模擬面接試験を実施し、問題点を各グループに分かれて討議した。

青森県町村会に事務局を置く各団体役員名簿 (平成23年7月1日現在)

青森県市町村農業農村  
振興対策協議会  
(会員数 28市町村)



館岡 会長

会長

館岡 一郎(板柳町長)

副会長

小山田 久(十和田市長)

斗賀 壽一(東北町長)

理事

福島 弘芳(つがる市長)

逢坂 雄一(平内町長)

鈴木 孝雄(田舎館村長)

越善 靖夫(東通村長)

浜谷 豊美(階上町長)

青森県広報広聴協議会  
(会員数 1県・40市町村)



越善 会長

会長

越善 靖夫(東通村長)

副会長

鹿内 博(青森市長)

小山内 豊彦(県企画政策部長)

理事

葛西 憲之(弘前市長)

小林 真(八戸市長)

鳴海 広道(黒石市長)

平山 誠敏(五所川原市長)

小山田 久(十和田市長)

宮下 順一郎(むつ市長)

福島 弘芳(つがる市長)

大川 喜代治(平川市長)

森内 勇(外ヶ浜町長)

吉田 満(深浦町長)

鈴木 孝雄(田舎館村長)

亀田 道隆(野辺地町長)

金澤 満春(大間町長)

松橋 良則(田子町長)

青森県市町村林野  
振興対策協議会  
(会員数 29市町村)



古川 会長

会長

古川 正隆(蓬田村長)

副会長

大川 喜代治(平川市長)

小又 勉(七戸町長)

理事

鳴海 広道(黒石市長)

吉田 満(深浦町長)

関 和典(西目屋村長)

越善 靖夫(東通村長)

竹原 義人(三戸町長)

全国山村過疎地域振興  
連盟青森県支部  
(会員数 28市町村)



太田 支部長

支部長

太田 健一

(佐井村長)(過疎地域対策部会長兼任)

副支部長

野坂 充

(横浜町長)(山・過疎地域対策部会長兼任)

小鹿 正義

(今別町長)(過)

理事

平山 誠敏

(五所川原市長)(過)

大川 喜代治

(平川市長)(山)

森内 勇

(外ヶ浜町長)(山)

東條 昭彦

(鯹ヶ沢町長)(過)

山田 年伸

(大鰐町長)(山・過)

小野 俊逸

(中泊町長)(山)

飯田 浩一

(風間浦村長)(山・過)

松橋 良則

(田子町長)(山)

須藤 良美

(新郷村長)(過)

(山)は山村担当理事

(過)は過疎担当理事

発電関係市町村全国  
協議会青森県支部  
(会員数 8市町村)



関 支部長

支部長

関 和典(西目屋村長)

副支部長

竹原 義人(三戸町長)

会員

青森市

黒石市

十和田市

平川市

鯹ヶ沢町

深浦町

青森県町村会内部団体  
協議会 共通 監事

種市 一正(三沢市長)

古川 健治(六ヶ所村長)

東條 昭彦(鯹ヶ沢町長)

## 総合賠償補償保険 制度を説明

### 事務担当者研修会

本会は四月二十八日、青森市の県共同ビルで総合賠償補償保険事務担当者研修会を開催した。出席者は市町村の担当者約四十人。

研修会では、山口本会常務理事兼事務局長が「本保険制度の趣旨は、市町村の法律上の賠償金の支出による財政負担の軽減と、スムーズな賠償



制度の理解を深める参加者

問題の解決により行政の円滑化に寄与することである。今後とも本保険制度に対するご支援ご協力を賜りたい」とあいさつした。

## 国への 要望項目等を協議

### 北海道東北六県町村会 政務担当部長会議



政務担当部長が要望事項等を協議

北海道東北六県町村会協議会（事務局・北海道町村会）は五月十二日、青森市の県共同ビルで北海道東北六県町村会政務担当部長会議を開催し、平成二十四年度政府予算編成並びに施策に関する要望などを協議した。

会議では、東日本大震災に関する緊急要望のほか、地域の自主・自立性を高める社会の実現、地方財政基盤の強化、農業・農村対策の推進など、当面する課題を整理・集約し、六月十六日開催の事務局長会議に提案することとした。

引き続き、本保険幹事会社である（株）損害保険ジャパンの恩田青森サービスセンター課長あいさつの後、全国町村会総合賠償補償保険の概要と事故処理について同社担当者から「賠償補償事業が年々複雑多様化、賠償額も高額化の傾向があり、住民の損害賠償請求の意識も変化している。近年増加傾向の市町村道穴凹事故は、道路管理者と被害者の過失相殺の適用が大半を占める。また、庁舎等屋根雪の落雪事故の大半が駐車中の自動車の破損事故であり、屋根下を駐車禁止にしバリケード等を設置する等の対策を講じるべきである。事故が発生した場合、速やかに青森サービスセンターか町村会へ連絡し、事案の早期解決を図っていただきたい」と説明したほか、地震保険のこれまでの経緯や東北地方太平洋沖地震に伴う支払状況等を紹介した。

次に、本会事務局が二十三年度更新加入事務と事故報告書の取扱い及び二十二年度加入状況、支払い実績等を説明し、本保険制度に対する理解と協力を求めた。

## 各種共済事業を説明

### 災害共済関係事業 事務研修打合せ

本会は六月十日、青森市のアップルパレス青森で災害共済関係事業事務研修打合会を開催した。出席者は市町村及び一部事務組合等の事務担当者約百十人。

はじめに本会の山口常務理事兼事務局長が「相互救済を原則とする、共済事業の安定的な運営は、加入団体と加入者によって支えられているものであり、事業の更なる充実強化とサービスの維持向上を図るためには、事務を担当されている皆様方の御理解と御



全国町村会の堀江庶務課長が説明

協力が不可欠である。今後皆様方のご要望に応える事業としていきたい」とあいさつした。

打合会では、全国町村会災害共済部庶務課の堀江課長が、「これからの共済事業を考えると」と題し、保険事業と共済事業の違いや共済事業を取り巻く状況、今後の共済事業の在り方等を説明したほか、同公有物件課の戸田課長が、（財）全国自治協会災害共済事業について説明し、公有建物災害共済の共済委託に関する留意点や落雷損害共済金の請求、東北地方太平洋沖地震に係る公有建物災害見舞金の請求及び被災市町村への公有自動車の貸与等について説明した。

引き続き事務局から、生協火災・自動車共済事業、任意共済・特定疾病保険事業、弔慰金事業、個人年金共済事業の概要並びに更新事務手続きや、公有・生協事故報告及び共済金請求に伴う事務手続き等を説明したほか、車両保険幹事会社である損害保険ジャパン青森支社より車両共済の説明があった。



五戸町長  
三浦 正名氏

任期満了に伴う五戸町長選挙は、五月三十一日告示され、現職の三浦正名氏（57）が、無投票で四選を果たしました。  
〈略歴〉 会社社長



風間浦村長  
飯田 浩一氏

横浜力前村長の辞職に伴う風間浦村長選挙は、四月二十四日、投票が行われ、新人の飯田浩一氏（50）が、初当選を果たしました。  
〈略歴〉 村議会議員



板柳町長  
館岡 一郎氏

任期満了に伴う板柳町長選挙は、四月二十四日、投票が行われ、現職の館岡一郎氏（68）が、四選を果たしました。  
〈略歴〉 町総務課長

## 青森県町村長等名簿

平成23年7月1日現在  
町村数30町村(22町8村)

町村		区分	町 村 長	生年月日	当選回数	任期満了年月日	副町村長
東郡	平内町		逢坂雄一	S16. 9. 18	4	23. 11. 14	蝦名昭彦
	今別町		小鹿正義	S 6. 2. 18	3	25. 10. 12	阿部義治
	外ヶ浜町		森内勇	S13. 3. 2	2	25. 4. 23	
	蓬田村		古川正隆	S22. 6. 2	4	25. 11. 8	
西郡	鱒ヶ沢町		東條昭彦	S16. 4. 15	1	25. 12. 26	長内仁
	深浦町		吉田満	S28. 9. 9	1	24. 12. 20	本田満生
中郡	西目屋村		関和典	S42. 2. 24	2	26. 2. 25	
南郡	藤崎町		小田桐智高	S35. 7. 21	3	25. 4. 23	浅利一
	大鰐町		山田年伸	S27. 3. 11	1	26. 7. 21	
	田舎館村		鈴木孝雄	S12. 2. 10	2	24. 11. 17	
北郡	板柳町		館岡一郎	S18. 3. 4	4	27. 4. 29	成田誠一
	鶴田町		中野撃司	S 4. 11. 7	10	26. 8. 20	山本一郎
	中泊町		小野俊逸	S17. 7. 29	4	25. 4. 23	
上北郡	野辺地町		亀田道隆	S17. 11. 30	2	23. 10. 26	金澤年男
	七戸町		小又勉	S24. 1. 2	2	25. 4. 23	大平均
	六戸町		吉田豊	S25. 3. 28	5	24. 1. 27	
	横浜町		野坂充	S26. 1. 31	2	24. 12. 11	新渡喜広
	東北町		斗賀壽一	S19. 7. 2	1	25. 4. 23	蛭名敏治
	おいらせ町		成田隆	S26. 2. 4	1	26. 3. 25	西館芳信
下北郡	六ヶ所村		古川健治	S 9. 5. 28	3	26. 7. 6	戸田衛
	大間町		金澤満春	S25. 3. 9	2	25. 1. 18	菊池武利
	東通村		越善靖夫	S17. 1. 7	4	25. 4. 12	吉澤俊弘
	風間浦村		飯田浩一	S35. 5. 5	1	27. 4. 23	
	佐井村		太田健一	S26. 11. 25	3	25. 4. 21	
三戸郡	三戸町		竹原義人	S25. 11. 28	1	24. 12. 15	藤田昭仁
	五戸町		三浦正名	S29. 1. 1	4	27. 6. 26	鳥谷部禮三郎
	田子町		松橋良則	S18. 10. 24	2	25. 7. 9	
	南部町		工藤祐直	S30. 5. 22	4	26. 2. 11	坂本勝二
	階上町		浜谷豊美	S31. 8. 23	2	25. 12. 23	久保和子
新郷村		須藤良美	S15. 3. 29	2	25. 5. 28	田島正美	



## 蓬田村の産直物産館

# 桃太郎トマトなど新鮮な農水産物を提供

## 東北新幹線全線開業で弾み

蓬田村は、津軽半島の陸奥湾側、その付け根に位置し、産直物産館「村の駅よもっと」や「よもぎた物産館マルシェよもぎた」では、桃太郎トマトをはじめとする様々な新鮮な食材を取り揃えています。

### 村の駅よもっと

蓬田村の国道二八〇号バイパス沿いにある産直物産館「村の駅よもっと」は、地域の食材を扱う産直市場で、近隣農家の新鮮な農産物やその加工品、さらに、漁師から直接仕入れた鮮魚を販売しています。活魚の大きな生けすでは、ひらめなどが販売され、店内の食堂コーナーで食べることもでき、「刺身定食」や「日替わりフライ定食」などが人気で、お昼時には多くのお客で賑わいます。



- 定休日／無休、1月1日～3日は休み
- 営業時間／8：00～18：00
- 電話／0174-31-3115
- 住所／蓬田村大字阿弥陀川字汐干106



## 桃太郎トマトを 多彩に加工

村の数ある特産品の中でも、地元のとまと農家のお母さんたちによって丹精込めて作られた桃太郎トマトの加工品は、完熟した美味しいトマトを贅沢に使用し、「トマトジャム」「トマトケチャップ」

「トマトピューレ」など、バラエティ豊かな商品を取り揃えています。

平成十四年に活動を開始した「蓬田村とまと加工グループ」は、とまと農家のお母さんたち五人で組織。青森市内にある加工施設で、通年、様々な加工品を生産し、よもぎた物産館マルシェよもぎたをはじめ

め、新青森駅や観光物産館アスパムなどで販売しています。生のとまとはアルカリ性食品の代表として、血の汚れを防ぎ、脂質の分解を助ける効用があります。そのため、肉や魚の付け合わせとして大いに利用され、高血圧予防や疲労回復にも大変役立つとされています。

玉松海水浴場に隣接する「よもぎた物産館マルシェよもぎた」は、とまとやホタテなど、地場の農産物、海産物がそろった産直施設です。ホウレンソウや各種鮮魚、花やコメ、ブドウの他、ホタテおこわ、おからドーナツなども有ります。

## よもぎた物産館 マルシェよもぎた

陸奥湾に面した国道沿い、

た」は、とまとやホタテなど、地場の農産物、海産物がそろった産直施設です。ホウレンソウや各種鮮魚、花やコメ、ブドウの他、ホタテおこわ、おからドーナツなども有ります。

## よもぎた 桃太郎トマト 主な商品 ラインナップ



### とまとけちやっぷ

100%桃太郎トマトで作った手作りの味。無添加・無着色、とまとのおいしさがぎゅうっと詰まったおすすめ逸品。

### 桃太郎トマト

夏の太陽を受け真っ赤に完熟したトマトはビタミンCがたっぷり。冷やして食べると、しゃきっと引き締まった味が広がります。

### 桃ちゃんのタレ

桃太郎トマトから生まれた焼き肉用タレ。じっくり煮込んだ手作りの味は、まろやかな肉の旨味を引き立てます。



## 新幹線開通と蓬田村

村と隣接する青森市へ東北新幹線が乗り入れたことで、観光への期待も高まっています。青森市の中心部まで国道二八〇号バイパスを経由して車で約二十五分、並走するJR津軽線は約三十分で結ばれ、村内に四つの駅があります。

東北新幹線JR新青森駅とは、車で二十分ほどで結ばれていることから、観光資源の見直しやバス路線の新設などを念頭に、地場産品の開発やアンテナショップの活用、観光レクリエーション施設の充実や滞在型体験交流プログラムのや宅地分譲の促進など、今後の観光開発の新たな可能性を模索しています。



- 定休日／5月～10月までは無休、それ以外は火曜、1月1日～3日休み
- 営業時間／8:00～18:00(5月～10月)、9:00～17:00(11月～4月)
- 電話／0174-31-3040
- 住所／蓬田村大字郷沢字浜田地内



問い合わせ先 JA東つがる 蓬田支店  
TEL 0174-27-3111

蓬田村では、これから夏にかけて、トマトの栽培が最盛期を迎えます。太陽をいっぱいを受けて、のびのび育った桃太郎トマトは、ビタミンCが豊富で、高血圧予防や疲労回復にも効果があります。

暑い夏に冷やして食べる、シャキッと引き締まった桃太郎トマトは格別！ぜひ一度、農家の方の愛情と栄養が詰まった桃太郎トマトを、ご賞味下さい。

愛情・栄養たっぷり  
『桃太郎トマト』

いまが旬!  
よもぎたむら  
蓬田村

東津軽郡



問い合わせ先 深浦町観光課  
TEL 0173-74-2111 (内線155)

百年の時を経て「北前船(辰悦丸)」が入港して以来、25年ぶりに「北前船(みちのく丸)」が来航することとなり、夏の風物詩である浴衣を着用した町民参加型イベント「ふかうらヤットセ特別編」として、船内公開や船員体験等のイベントを組み入れ、風待ち湊の象徴である「船絵馬」の奉納や、やぐらを囲んでの「深浦小唄」踊りが行われます。(初日は臨場感あふれる深浦港で花火大会開催。)

開催期間：平成23年7月17日(日)～18日(月)  
開催場所：深浦字浜町「夕陽公園」

津軽風待ち湊ふかうらヤットセ  
特別編「北前船来航」

いまが旬!  
ふかうらまほ  
深浦町

西津軽郡



問い合わせ先 田舎館村役場産業課  
TEL 0172-58-2111 (内線143)

全国各地から見物客が訪れる田舎館村の田んぼアート。昨年は約14万人が訪れ、今年3月8日に東京国際フォーラムで開催された『ふるさとイベント大賞』では最高賞の大賞(総務大臣表彰)を受賞しました。

5月29日に田植えが行われ、稲刈り前日の10月1日まで、土日祝日も含め役場天守閣展望室を9時～17時(入場は16時30分)の間、一般開放しております。天守閣展望室からの眺めは、まさに壮観。ぜひお越しください。

今年の田んぼアートは  
『竹取物語』

いまが旬!  
いなかだてむら  
田舎館村

南津軽郡



問い合わせ先 横浜町役場産業建設課  
TEL 0175-78-2111

8月14日(日)「2011よこはま夏まつり」を開催致します。

三保野公園にて、横浜町特産の馬鈴薯を味わえる「いも煮会」を開催。他にも各種特産品があたる大抽選会があります。

夕方からは横浜町漁港にて第21回花火大会を行います。大迫力の打上げ花火、水中仕掛け花火を間近でご覧下さい。

「2011よこはま夏まつり」  
開催

いまが旬!  
よこはままつり  
横浜町

上北郡

いまが旬!

# 東北町

とほくまち

上北郡

「今年の夏は笑顔の花咲く  
小川原湖へ」

東北町湖水まつりが7月23日(土)、24日(日)、東北町の小川原湖畔で開催されます。

23日の「わかさぎマラソン大会」では、全国から参加するランナーたちが、湖を望むコースを元気に駆け抜けます。

また同日夜に行われる「創作花火コンクール」では、全国有名花火師10社による音と光の競演が繰り広げられます。

今年の夏は、さわやかな笑顔の花咲く小川原湖へぜひお越しください。



問い合わせ先 東北町商工観光課  
TEL 0176-56-3111

いまが旬!

# 佐井村

さくいむら

下北郡

「観光シーズン到来! 秘境  
「仏ヶ浦」へレッツゴー!」

国の名勝及び天然記念物に指定されている「仏ヶ浦」。

白緑色の凝灰岩が約2kmにわたり連なり、如来の首・五百羅漢・一ツ仏・極楽浜など“仏”にちなんだ名前がそれぞれに付けられ、大自然の荒波が創り上げたスピリチュアルな秘境はまるで極楽浄土を思わせます。

佐井港・牛滝港から出航する観光船で壮大なパノラマを楽しみ、全景を見た後には上陸し、ガイド案内のもと、その絶景を味わってみませんか? みなさんのお越しをお待ちしています。



問い合わせ先 佐井村産業建設課  
TEL 0175-38-2111  
佐井村観光協会  
TEL 0175-38-4515

いまが旬!

# 五戸町

このへまち

三戸郡

「五戸まつり」

豊作を願う五戸地方最大の祭事です。お神輿、お稚児さん、神楽などの行列に続くのは、町内会などが自作した10台の豪華絢爛な山車。これらが“坂の町”五戸を練り歩き、一大絵巻を展開します。

2日目「中日」の夜には、ライトアップされた山車による夜間競演も行われ、大勢の観客が詰め掛けます。ぜひご覧ください。

開催時期: 9月2日(金)~9月4日(日)



問い合わせ先 五戸町役場 企画振興課  
TEL 0178-62-2111 (内線234)

いまが旬!

# 新郷村

しんきょうむら

三戸郡

「高原の夏を満喫♪」

標高350mの高原に広がる65haという広大な自然滞在型観光レクリエーション施設として人気の「間木ノ平グリーンパーク」。宿泊施設には約500人収容の一般キャンプ場、八棟のバンガローや58区画のオートキャンプ場。男女別のシャワー室や水洗トイレ・食堂などの施設も完備。

ご家族お揃いでおいでください。



問い合わせ先 間木ノ平グリーンパーク  
TEL 0178-78-3333

## ● 共済契約できる自動車

1. あなたの所有する
2. あなたと同一世帯に属する親族（同居の親族）の所有する

- 自家用普通・小型乗用自動車
- 自家用軽四輪自動車
- 自動二輪車 ● 原動機付自転車

## ● 共済掛金と共済金額

用途及び車種 区分		共済掛金額（年間）			
		自家用普通・小型乗用 小型貨物車(660cc超)	自家用軽四輪乗用 貨物車(660cc以下)	自動二輪車 (125CC超)	原動機付自転車 (125CC以下)
A 型	対人賠償	30,000円	19,000円	17,000円	12,000円
	対物賠償				
	自損事故傷害共済				
	限定搭乗者				
B 型	対人賠償	33,000円	21,000円	20,000円	14,000円
	対物賠償				
	自損事故傷害共済				
	限定搭乗者				

※無共済等自動車傷害共済・他者運転特約も自動付帯。 ※自賠責保険と共済金の一括払も実施しています。

### 町村生協の自動車共済にご加入の皆様なら！

町村生協の自動車共済にご加入の方のみ、車両共済(保険)に加入できます

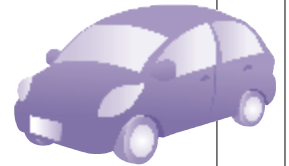
- 町村生協の自動車共済で過去3年間無事故で、新たに車両共済(保険)に加入する場合、新規契約と比較して

**40%割引（9等級）からスタート！**

- 一括払いでご契約の場合は、さらに **5%割引！**
- 保険料分割払（12回）も選択可能です。
- ロードサービスも無料でサービス！

いつでもご加入いただけますので下記までお問い合わせ願います。

問合せ先 全国町村職員生活協同組合青森県支部  
青森県町村会総務課〔共済事業〕 TEL017(723)1331



万一の事故に備えを！

# 自動車共済

## 事故処理対応 を学ぶ

### 自動車事故処理研修会

本会は七月一日、青森市のアップルパレス青森で自動車事故処理研修会を開催した。出席者は市町村及び一部事務組合の担当者等約六十人。

はじめに、本会の山口常務理事が「車両・対物では、車の高級化や構造の複雑化による修理代の高騰、人身ではケガや死亡案件に対する判例の高額化等により、支払額が増える傾向にある。年々、多様化・複雑化する自動車事故の円満な解決のためには、適切



全国町村会の坂中自動車事業課長が説明

で迅速な対応、いわゆる『初動』そして『交渉』が重要なポイントとなることから、本日はテーマを絞った研修となっている」とあいさつした。研修会では、全国町村会災害共済部自動車事業課の坂中課長と岡崎主事から、「自動車事故による三つの責任について」及び「損害賠償について」と題し、車を所有、管理、運転をするときに必ず発生する責任や相手のある事故の際の相互に発生する責任、過失相殺などについて説明があった。

次に、本共済の示談代行制度に基づき事故処理にあたっている自動車共済サービス事務所の査定専門員が、自動車事故の事例について説明し、緊急自動車（消防車・救急車等）の事故、交差点内の事故、路外から道路へ進入する際の事故について、具体的な事例を交えながら対応や留意点を説明した。

最後に、事故処理のポイントと、事務手続き等について本会事務局が説明し、出席者は今後の事故処理事務の対応について理解を深めた。

確かな安心を！

# 住宅火災共済



## 安い掛金で大きな補償を

### ●共済契約できる物件

- あなたの所有する居住用建物、または、その建物内にある動産
- あなたと同一世帯に属する親族が所有し、かつ、あなたが現に同居している建物または、その建物内にある動産

### ●共済掛金と共済金額

共済掛金（年額）は共済契約1口（10万円）につき60円です。

契約額の最高限度は、600口で、6,000万円が限度です。

共 済 契 約 の 最 高 限 度			
区 分	口 数	共済金額	共済掛金
建物のみの場合	400口	4,000万円	24,000円
動産のみの場合	200口	2,000万円	12,000円
建物と動産を併せた場合	600口	6,000万円	36,000円

### 風水雪害特約制度

風水雪害特約制度は、風水雪害による損害について、火災共済契約に任意に付加することにより共済金を支払う特約制度です。特約を付加していない場合、風災、水災又は雪災による損害は、損害額が50万円以上の場合、損害の程度に応じ給付され、全損の場合では100分の10又は450万円のいずれか低い額の給付ですが、特約に加入することにより、火災共済契約の風水雪害共済金に加算して風水雪害特約共済金を損害額の50%又は火災共済契約額の50%のいずれか少ない額を限度に支払います。（ただし、風水雪害共済金と特約共済金の支払合計額が3,000万円を超える場合、3,000万円が限度となります。）特約共済掛金は、一口10万円につき50円です。（火災共済契約と同額を特約共済金額とします。）



元気  
おおきく

**サマー  
ジャンボ**

1等前後賞合わせて  
**3億円**

1等:2億円 前後賞各5千万円 2等:1億円

元気  
いっぱい

2つのサマー宝くじ！

元気と増額!!

**2000万  
サマー  
400本**

1等:2千万円×400本



2011年  
市町村振興宝くじ

**7/11**同時発売

発売期間 7/11①▶7/29②  
抽せん日 8/9③

この宝くじの収益金は市町村の  
明るく住みよいまちづくりに使われます。  
財団法人 青森県市町村振興協会

# 随想

## 第10話

# 心を未来へ

# 引き継ぐ



みつる  
**満**  
深浦町長

よし た  
**吉田**

### プロフィール

町議会議長。

現在1期目、57歳。

愛用の作業服に身を包み、白いタオルを手に玄関を出る。真夏とはいえ七月の深浦の朝は、日本海からのひんやりとした潮風が心地よく、寝惚けた体をやさしく刺激してくれます。近所の先輩農家の方々に、「ネクタイ姿よりも似合っている」などとかかわれながら、我が家の田んぼへ続くあぜ道を進むと、膝丈までに成長した自慢の稲が、私の到着を心待ちにしていたかのようにつつくりと揺れています。爽やかな朝のひととき。ひとり夢中に農作業に没頭する。これが、いつもと変わらぬ私の一日の始まりです。若かった頃は、苦痛にしか感じられなかったことが、最近、特に町長就任を機に、この時間こそ、私にとって至福のひとときであると思えるようになりました。

私は平成二十年十二月に深

浦町長に就任しました。当時の深浦町は、三位一体改革に伴う財政悪化で危機的な状況にありました。ある経済紙に財政破綻の危険度全国第八位と指摘されていたほどで、町全体が一丸となって健全化への取り組みを進めていました。その努力の甲斐あって、合併以後四年間続いていた赤字を、平成二十年度決算で解消することができました。

さて、日本全体が人口減少社会に突入している今日、特に地方町村部においては急激な少子化などにより、地域の活力が失われつつあります。このような状況を改善するために町が進めている二つの取り組みをご紹介します。

ひとつは、「地域六次産業化」の推進です。深浦町は、世界自然遺産「白神山地」と雄大な日本海に抱かれた自然豊かな町です。この恵まれた

環境が育んだ農水産物を活用して、内発的な産業おこしを進めようとしています。生産・加工・販売（一次産業×二次産業×三次産業＝六次産業）といったそれぞれの分野を地域全体で担うことにより、農水産物の付加価値を高め、産業界全体の所得向上と地域内経済の循環による活性化を目指します。現在、その中核施設である農水産物一次加工場の整備を進めているところです。



「手を振り隊」が観光客をおもてなし

もうひとつは、「住民協働のまちづくり」です。深浦町では今、住民自らが地域課題に向き合おうとする動きが芽生え始めています。例えば、高齢者や移動手段を持たない方々の強い要請にこたえて、女性グループが野菜や惣菜の直売所を開設いたしました。また、深浦町の魅力を伝え、地域を元気にしたいとの思いを共有する有志が、町づくり応援隊「いいべ！ふかうら」を結成し、JR深浦駅でもてなしイベントを続けています。このような行動に住民を駆り立てたのは、自らの地域をどうにかして活性化したい。元気にしたい。との共通の思いです。地域が抱える課題を地域住民が主体性をもって解決していく。これこそ「住民協働のまちづくり」の原点であり、この機運をさらに盛り上げていきたいと思っています。

晴れた日の夕刻、海岸線と並行して走る国道一〇一号沿いには、車を停めて日本海に映える美しい夕陽を眺める方々がいらつやいます。その後ろ姿を見ると、いつにも増してこの町が誇らしく思えてきます。この恵まれた景色と風土、そして人々のふるさとを思う熱い心を未来に引き継ぐことが、今を生きる我々の最大の役割であると感じています。